

平成27年度 農林水産常任委員会管外視察の概要

- 視察日時 平成27年10月13日(火)～15(木) 2泊3日
- 視察者 農林水産常任委員(7名)
浦田祐三子(委員長)、山口裕(副委員長)、前川 收、
吉永和世、磯田 毅、岩本浩治、大平雄一
- 視察先 中華人民共和国 香港特別行政区
①熊本県香港事務所 ②九龍水果市場
③油麻地街市・専門店街 ④JETRO 香港事務所
⑤イオン太古店 ⑥GOGOFOODS(香港の輸入業者)
- 視察趣旨 本県では、本年9月に「熊本県香港事務所」を開設し、アジア最大のマーケットである香港のバイヤー等との連携強化、情報収集等の体制を強化し、香港を拠点にアジアへの農林水産物等の輸出拡大を図っていくこととしている。
県議会としても、これらの取り組みを支援するため、JETRO香港事務所、香港有数の輸入業者、香港の地元消費者が集まる市場やスーパー等を訪問し、香港における農林水産物の貿易状況や需要動向、地元消費者の消費動向などを調査し、今後の委員会審議の参考とするため、今回の視察を実施。

■視察の概要

①熊本県香港事務所

平成27年9月に、熊本県と肥後銀行の共同事務所として開所。現在、所長以下4名の職員で活動中。

主に香港の小売り業者、輸入業者等への県産品の売り込み、香港の消費動向等の情報収集等を行っている。



②九龍水果市場

③油麻地街市・専門店街

日本の青果市場のような場所で、主にレストランや料理店など業者が買い付けに来る。一般的な食材が販売されているが、日本産の果物も多く入っていた。

この時期は、日本のブドウ(山梨)、ナシ、メロン(北海道)などが多く見受けられた。



④ JETRO 香港事務所

香港の経済概況や香港食品市場の動き、香港における日本産食品の現状等について、中国本土の状況等も交えながら詳細に説明を受けた。

「香港市民の経済力は高く豊かで選択肢の幅が広く、日本の商品は安全・安心・おいしさの信頼から非常に有利。

ただ、香港では良いものは高く、それ以外は安くと中間がない。日本の農産物がどちらに類型化されるかは、輸出者側の説明責任にかかってくる」等のアドバイスを受けた。



⑤ イオン太古店

初めにイオン香港グループの概要、香港の経済状況や消費者ニーズ、熊本との連携企画等について説明を受けた。

その後、太古店内の主に生鮮物コーナーを視察。日本から野菜や和牛、水産物など多くの商品が陳列、販売されていた。



⑤ GOGOFOODS

会社の概要、現在の香港における日本の農林水産物の状況等の説明を受けた。その後、これから熊本の農林水産物を香港市場へ売り込んでいくための戦略等について意見交換を行った。

「香港のマーケットが世界で一番日本の高級食材を扱っており、ここにどう合わせて、組みたてがきちんとできるかで変わってくる。日本中からいろいろな農林水産物が入ってくるが、圧倒的な違いが出せなければ売れない。クオリティ・プライス・サービス、この3つをミックスして差をつけないと世界競争には負ける。もちろん『商品力』は大事だが、『価格』+『情報』『安定供給』『規格』が加われば、そこで差別化して少し高くても売れる」等、社長自身のこれまでの経験をもとにした具体的なアドバイスも受けた。

